

令和4年度 第3回大崎市陸羽東線再構築検討会議 会議録

1 開催日時 令和5年3月13日（月） 午後1時30分～午後3時

2 開催場所 大崎市鳴子総合支所庁舎 1階ホール

3 出席者 下記名簿のとおり

(1) 検討会議

No.	役 職	氏 名	備 考	出 欠	
1	副市長	吉 田 祐 幸	会長	○	
2	副市長	尾 松 智	副会長	○	
3	市民協働推進部長	伊 藤 文 子	幹事長	○	
4	総務部長	赤 間 幸 人	幹事	○	代理
5	民生部長	洪 谷 勝	幹事	○	
6	産業経済部長	寺 田 洋 一	幹事	○	
7	建設部長	茂 泉 善 明	幹事	○	
8	教育部長	宮 川 亨	幹事	○	
9	病院経営管理部長	中 田 健 一	幹事	○	
10	岩出山総合支所長	安 藤 豊	幹事	○	
11	鳴子総合支所長	伊 藤 正 幸	幹事	○	

(2) オブザーバー

No.	役 職	氏 名	出 欠	
1	東北運輸局鉄道部計画課長	岩 淵 正 宏	○	
2	東北運輸局観光部観光企画課長	長 内 誠	○	
3	東北運輸局交通政策部交通企画課長	小 林 拓 也	○	
4	宮城県経済商工観光部参事兼観光政策課長	柳 澤 宏	○	代理
5	宮城県企画部地域交通政策課長	大 石 雅 邦	○	代理
6	東日本旅客鉄道株式会社東北本部総務部企画室企画課長	箸 方 稔	○	
7	一般社団法人みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長	星 義 一	○	
8	鳴子温泉郷観光協会事務局長	菊 地 英 文	○	

4 事務局 市民協働推進部まちづくり推進課課長 中鉢豊，同補佐 三澤香苗，
同主幹兼係長 千田貴憲，同主事 佐々木 弥祐
市民協働推進部政策課課長 高橋直樹
産業経済部観光交流課課長 今野富美

5 説 明

(1) 陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書（案）について

6 会議の概要（要点筆記）

1 開 会

- ・事務局が会議を進行。

2 挨拶

- ・伊藤大崎市長

第3回「大崎市陸羽東線再構築検討会議」の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。本日は、再構築検討会議にご出席いただきありがとうございます。

特に、本日もオブザーバーとしてご出席を賜りました、東北運輸局の岩淵課長様、長内課長様、小林課長様、宮城県から経済商工観光部の柳澤参事様に代わり、経済商工観光部副参事兼観光政策課総括課長補佐の乗田様、同じく宮城県企画部地域交通政策課の大石課長様に代わり、地域交通政策課副参事兼総括課長補佐の長谷部様、そして、JR東日本東北本部から箸方企画課長様、みやぎ大崎観光公社星事務局長様、鳴子温泉郷観光協会菊地事務局長様には、年度末の大変お忙しい中ご出席を賜り、深く感謝申し上げます。

県内の新型コロナウイルス感染症の感染者数が、1月中旬以降減少傾向にあり、本日から「マスク着用の考え方の見直し」が適用されました。本市におきましては、市民をはじめ来庁者等への感染防止と不安軽減を目的として当面の間、市職員はマスクを着用しての業務といたしました。引き続き、感染拡大防止に務めながら、市民の皆様共々、また、ご列席の皆様におかれましても、ご自愛いただければと存じます。

3月11日は東北人にとって一生忘れることのない東日本大震災の日。12年を迎えることとなり東日本大震災で亡くなられた方にとっては13回忌となります。改めてお悔み申し上げ、一日も早い復興を進めてまいりたいと思っています。

さて、再構築検討会議は第1回の10月20日を皮切りに、各地域の懇談会も3回ずつ開催いたしました。私と、二人の副市長も懇談会に参加し、直接、意見交換してまいりました。懇談会では、参加いただきました皆様方から、現状に対する厳しいご意見、そして今後に対する建設的なご意見などをたくさん頂戴いたしました。また、市広報の市民意見募集では、陸羽東線を利用されている方、関心のある方など市内外の多くの方々からご提言いただきました。先月26日には、市内9校の高校生を対象とした「おおさき高校生タウンミーティング」を開催し、陸羽東線をテーマにしたワークショップの中で、若者の柔軟な発想から陸羽東線の利用者増加策や地域活性化の事業提案をいただいたところです。

皆様から、陸羽東線の利活用促進に向けて知恵を出し合い、一丸となって陸羽東線の活性化に向けた取り組みについて、改めて熱意を感じさせていただいたところがあります。

本日の会議では、皆様からいただいたご意見、ご提案を取りまとめ、この陸羽東線を未来へつなぐための具体策について、その実行・実践の基礎となります検討報告書（案）をご説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

すでに、市職員による取組をいくつか進めておりますが、本格的な取組は、新年度の令和5年度からという事になります。

市職員が率先して利活用を推進し、住民、事業者、関係機関との協働のもとに各取組を推進してまいりたいと考えております。

本年は、陸羽東線の小牛田から岩出山駅間の開業110周年の年に当たります。

4月20日に、今年最初の四季島が入りますので、沿線地域の方々をはじめ、多く

の皆様のご協力をいただきながらお出迎えいたしまして、あわせて駅前の湯めぐり広場におきまして、記念イベントを開催する予定であります。

市といたしましては、ご列席皆様をはじめ、地域の皆様、市内の事業者や各種団体、さらに大崎市を訪れる多くのお客様に、引き続き陸羽東線の活性化に向けまして、お力添えを賜りますようお願い申し上げます、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 出席者紹介

- ・名簿に基づき事務局より紹介。

4 説明

(1) 陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書（案）について

- ・資料1に基づき事務局より説明を行った。

5 意見交換

○伊藤 市民協働推進部長

市民協働推進部として具体的な行動を6点ほど起こしてきた。行動と理解促進の2つの組み立てで実行してきた。行動の一つ目として1, 2月に公共交通通勤デーを実施し、市職員による公共交通利用を検証したところ、2月は往復で233回の陸羽東線の利用がありました。引き続きエコ通勤優良事業所の認定に向けて取り組んでまいりたい。2点目としては本庁舎、総合支所に応援の横断幕を掲げました。3点目としては高校生によるタウンミーティングを実施し、若い世代からの意見をいただいた。4点目としては地域懇談会と、2回の研修会を実施し理解を深めてきた。5点目としてはロゴを作成し、令和5年度から大崎市が発信する文書や名刺等にロゴを入れ理解促進に努めてまいりたい。

また、市の計画において大崎市地球温暖化対策実行計画を策定しているが、その中で脱炭素に向けたまちづくり推進の部分において、公共交通ネットワーク利用に関する取組を盛り込んでいる。理解促進については、市の関係団体に陸羽東線の利活用について周知を図ってきた。

○赤間 総務部長（代理：坪谷総務部参事）

総務部として実施してきたことは、納税通知書を5月と7月に封筒を用いて発送する予定であり、封筒の表部分に陸羽東線を応援している旨のメッセージを掲載するよう動いている。発送数は11万8800通を予定している。

市庁舎内を見渡したところ、陸羽東線の文言、絵や写真などが見られなかったため、総務課内においては陸羽東線の写真を額縁に入れ飾っている。また総務部全体に額縁の写真飾るよう動いている。

意見としては地域懇談会、高校生タウンミーティングで様々なアイデアや情報提供をいただいているので、一つ一つの意見を結びつけて、新しい取組を実践していただきたい。最後に公共交通通勤デーの2日間の利用状況の報告があった。今後について、できれば1カ月毎、年間の利用回数の目標設定をしてはどうか。例えば市として年間5,000回利用し、将来的には10,000回利用するといった目標を数値化してはどうか。

○渋谷 民生部長

民生部として、保育所の園児が乗車体験をするという取組をさらに増やしていきたい。国保加入者向けのポイント制度の記載があるが、当選された方に限り鳴子温泉の入浴券のプレゼントがあるが、この取組をもう少し太くしていきたい。

○寺田 産業経済部長

四季島やマルシェなどのイベントを行ってきた。意識付けとしてパンフレットやポスターに鳴子峡の部分を入れさせていただいた。これまでを振り返り、常に陸羽東線を意識付けながら色々とPRするべきだと実感した。陸羽東線利活用の取組は、観光の部分が多く、いわゆる非日常の部分、普段使いでない人をどう呼び込むか。地域に魅力がないと人が来ないので、地域にどう魅力を持たせていくか。JRや国、県、観光公社と連携しながら地域を盛り上げていきたい。人口が多くない地域もあるのでインバウンドも含めて今後進めていきたい。

○茂泉 建設部長

建設部としては公共交通通勤デーに積極的に参加するよう呼び掛けをしている。1月の段階では建設部として市全体と同じ16パーセント程で、2月の段階では34.8パーセント、建設部は50パーセント程参加したということ。今後の建設部の取組としては駐車場整備や周辺道路の整備、駅周辺の整備ということで、関係課や地域の皆さんと相談しながら検討していく。

1月17日の日本鉄道保存協会の米山事務局長の講演で、全国の景観の保存という話があった。その中で文化的風景や鉄道遺産という話や、今ある大崎市の居久根や茅葺き屋根、稲を乾燥させる風景の話と具体的に鳴子温泉地域の写真を画面に映した。我々からすると馴染みのある風景だが、講師からすると良い風景だという話があった。

市としては令和3年3月に景観計画を策定しており、今後、景観形成重点指定を進めていきたいと思っている。来年度はJRの沿線地区で、鳴子らしい風景とは何か、宝探しや宝磨きを進めるきっかけとなるようなセミナーを企画している。取組項目の中にもワークショップの開催があったので、そういったものと上手く組み合わせて取り組んでいきたい。

○宮川 教育部長

教育部としては、今年度については図書館でのローカル線の特別展示であったり、岩出山小学校の児童が「びゅうコースター風っこ（臨時列車）」を使い体験学習を行った。新年度についても学校や幼稚園の校外授業のほか、社会教育事業においても陸羽東線を活用した事業を積極的に推進していきたいと考えている。教育委員会としても様々な部署や教育機関と連携をしていきたいと考えているので、何かあれば気軽にお声掛けいただきたい。

○中田 病院経営管理部長

病院として様々な条件があり取組に協力することは難しいが、大崎市だけでなく4町の皆さんにもご利用いただいているので、意識向上のPRとしては積極的にお手伝いしていきたい。

○安藤 岩出山総合支所長

岩出山総合支所は地域振興課と市民福祉課の2課があるが、できることはすぐ取り組もうという呼びかけの中で、毎月発行している支所だよりにPRロゴを入れたり、階段部分にステッカーを貼ったり、展示コーナー、封筒、名刺など、できることはすぐ取り組んできた。各種会合の中で陸羽東線の利用を呼び掛け、多くの皆さんにご理解とご協力を周知してきた。

現在、まちづくり協議会の行事との連携によりカレンダー型の年度行事予定を作っているが、余白スペースに歴代の陸羽東線の写真を入れたり、活用を促すようなロゴを入れたり、そういった部分に特化して作成を進めており3月末に全戸配布する。利用が高いことから周知効果があると期待している。沿線の地域ということで多くの市民の方にこれからも寄り添う路線というかたちで、自分たちがどう関わられるかを啓発し陸羽東線を盛り上げていきたい。

○伊藤 鳴子総合支所長

鳴子温泉地域としては、公民館事業やまちづくり協議会の中で色々と計画している。公民館事業としては実際に事業の中で陸羽東線を利用してもらうことを計画している。本庁舎の会議の際に私たちがJRを利用し、改めて陸羽東線の状況を認識させられた。職員の中には1、2月の公共交通通勤デー以外にも自主的に利用した職員も何名かいた。非日常を日常の部分に繋げていければ、外からの利用者増に繋がると思うので、そういった部分に今後期待したい。

○尾松 副市長

このような形で検討報告書がまとまったことに敬意を表したい。これで終わりではなく、今回熱量が上がっている状態だと思うが、これを継続していくことが大事であるし、まだ無関心な層もいる。今すぐ何かしなければという視点でまとめられているが、将来のことを考えると生活に陸羽東線がどこまで密着した存在になるのか、それはまちづくりのあり方に関わってくる。どちらかというところこれまでのまちづくりが陸羽東線を意識しないかたちで進められてきた。これからは人口減少であり、コンパクトでそれをネットワークで繋ぐということを考えると、陸羽東線は確実にその中心になる存在。地域公共交通の在り方や立地適正化を含めて、陸羽東線を中心にしたまちづくりを考えていく必要がある。

○伊藤 大崎市長

陸羽東線利活用を視野に入れた、乗り鉄、撮り鉄を利用した写真コンテストの状況報告や外国人日本語学校等の取組について、事務局から状況報告をしていただきたい。

○高橋 政策課長

現在、外国人日本語学校の設置に向けて動いている。外国人の方にも活用しやすい公共交通という部分を意識しながら、生活する場所の位置について廃校となった9校のエリアに説明会をしている。現在の進捗状況は、公共交通を軸として外国人日本語学校の生徒が暮らしやすく、その周辺で受け入れる地域の皆さんとのコミュニケーションや公共交通の各拠点広がるまちづくりとの関連を含め、お話をさせていただいている。

○今野 観光交流課長

合併以降、大崎観光写真コンテストを開催している。今年度は約250点の応募があった。年々作品数が多くなっており、今年度は一般部門と学生部門を設けた。学生が気軽にLINE等で応募できる取組を行った。作品の中には列車をテーマとした写真もかなり多かった。それらの写真は大崎市で色々な場面で自由に使用できることとしている。来年度以降も観光写真コンテストを継続していくが、陸羽東線の利活用の取組として車窓部門を設けようと考えている。

JRのご協力もあり先週の金・土・日曜日、仙台駅でイベントをさせていただいた。陸羽東線・東北本線で移動し、車窓から写真を撮るとどうなるか色々検討させていただいた。列車の年数も経っており傷などもあったので、観光写真コンテスト車窓部門を設ける際には観光交流課で列車を掃除しに小牛田駅に向かいたいと思う。観光写真コンテストは5月以降募集申し込みを計画している。

○岩淵 東北運輸局鉄道部計画課長

昨年7月に国土交通省の検討委員会のほうから、少子高齢化や人口減少、モータリゼーションやコロナの機運での利用者の需要減の問題に対して、公共交通網のコストを含めたサービス供給のあり方について問題意識として提言されている。特に当該地域に関しては観光需要の取組や二次交通の問題、県境の問題もあった。そういった需要と供給のマッチングはどの地域も永遠のテーマである。これを機に適宜見直しを図ってもらい、関係者一丸となって活性化、あるいはサービスの最適化を図っていくことを期待している。

○長内 東北運輸局観光部観光企画課長

11ページのタクシーの循環・シャトル運行の検討・実施ということで、そこには当然ニーズの把握などのプロセスが重要だと思う。11ページ下にレンタサイクルやサイクルトレインなどがあり、これは通学の人や観光客にとっては有効な手段とは思いますが、果たしてニーズがあるのか、駅周辺にそのようなアクティビティがあるのかが重要であるので、そのプロセスを必ずやってから施策に繋げていただきたい。

○小林 東北運輸局交通政策部交通企画課長

先程副市長からの発言にもあったが、大事なのはこれからであり、ここで取組の方向性を定め、それに沿って具体的な取組を来年度以降着実に進めていくことが重要になる。またそれらの取組がねらった効果を出しているのかをモニタリングしていくことが重要。当初計画していた取組がこれで十分なのかどうかを見直すことも重要。陸羽東線が軸の話になるが、鉄道利活用を促進していく場合、そこに接続する二次交通も一体となり、地域のネットワーク全体で取り組んでいくことが重要になる。鉄道とバスを切り分けてしまうのではなく、地域のネットワーク全体として住民や観光客が使いやすく分かりやすいかを意識しながら推進して行ってほしい。

○柳澤 県観光政策課長（代理：乗田 県観光政策課統括課長補佐）

まずは市民生活路線として成り立つことが最も大切なこと。その上で観光資源としての付加価値の向上が重要である。県としては陸羽東線を活用した旅行商品の造成やプロモーションなど連携の下、しっかりと取り組んでいきたい。

○大石 県地域交通政策課長（代理：長谷部 県地域交通政策課統括課長補佐）

大崎市の場合は観光資源が豊富にあるので観光の部分をクローズアップしているが、やはり鉄道は地域交通の基幹であるので、地域の人に日々どれだけ利用されているかが重要。報告書を拝見すると今回の取組を通じて、沿線の住民の皆さんに陸羽東線が再認識されることになったと思う。今後の取組についても我々県の地域公共交通会議にも参画させていただいているので、共に今回のこのプロジェクトに協力していきたい。また大崎市でいち早く利用促進に取り組みされたことは県内の自治体からも注目されているので、今回の成果については県内の鉄道沿線の各自治体の皆様と共有して利用促進の輪が広がっていけばと考えている。

○箸方 JR東日本東北本部企画課長

今回の報告書に含まれている鉄道の利用促進に関わる項目について、社内でもしっかりと情報を共有して今後どうしていきたいかを考えている。当社が線区別収支を開示した意義としては、具体的な経営状況を地域の方々と共有し現状をご理解ご認識いただきたいと考えていたところである。今回の報告書は、まさに大崎市で地域の皆様と一緒に考えていただいた結果であり非常にありがたいと感じている。今後の利用状況は線区の特徴などを含め将来に向けて持続可能な地域の交通体系について、地域の皆様と一緒に考えていきたい。当社としては鉄道の利用促進や更なる地域活性化の実現に貢献していきたいという思いは同じである。大崎市と連携協力しながら取り組んでいきたい。

○星 みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長

今年度は官公庁の看板商品の創出事業をやらせていただいた。これは臨時列車を使いお客様に来ていただき鳴子周辺や大崎耕土の食文化を体験してもらう。結果はかなり喜んでいただいたのだが、やはり陸羽東線を利用してもらうためには魅力あるものを提供しなければならない。観光事業者とすれば、そういった部分を地域のお客様と向き合い誘客につなげていきたい。駅に集まり駅から出発し駅で解散ということで、必ず列車を利用する仕組みになっていたコースが過去にあった。酒蔵をコースの中に入れると車では来ることができないので列車で来ることになる。あるいはお客様に選んでいただけるような商品を企画することが大切だと思っている。意見交換や情報交換をしながら地域づくりと連携していきたい。観光は大きな柱であるので大崎市と共に取り組んでいきたい。

○菊地 鳴子温泉郷観光協会事務局長

これまでの会議であまりインバウンドが出てこなかった。インバウンドのお客様はレンタカーを借りる人はあまりおらず、公共交通機関を利用する。そういったインバウンドのお客様の視点も入れていくべき。地元の観光関係の団体でも関心が高まってきており、理事会や役員会でも来年度の予算に紐付けてどのような取組ができるのかという話も多くなりアイデアも出始めている。熱量を高めていく方向で取り組む機運は団体の中でも高まっており、予算を振り分けるような話になってきている。先程副市長から、生活の中にあまり意識しなかったという話があったが、観光業界のほうでも、あるのが当たり前で陸羽東線という意識は低かった。存続するための取組ではなく、武器とし

て更なる集客発展に繋げられる大きな力と捉え取り組むべきである。一番近くで理解しており、プランを作成できるのは観光公社ということで、大崎市と協力していきたい。最近、PR動画がないのかという問い合わせがあることから、コンテストを開催して一連のPR動画を作成するのも良いのではと個人的には思っている。

6 その他

7 閉 会

・吉田会長の挨拶で閉会

お陰様で検討報告書案を取りまとめることができた。報告書の取りまとめにおいては市民の皆様から144件の提案をいただき、各専門家からも多くの提案をいただき、改めて気づきがあった。新しい改善のアイデアを蓄積することができたと感じている。例えば危機意識の共有化、アンケートや通勤デー実施により現状認識の深堀ができてきたと思っている。また地域懇談会においては183件の提案を頂戴し、高校生のタウンミーティング実施により、陸羽東線へのより一層の意識の醸成に繋がってきたと思っている。これから市民の皆様の利活用促進の取り組み機運がますます高まり深化していくものと認識している。

お手元に会津の只見線のドキュメンタリー映画のパンフレットがあると思うが、4月から古川のリオネで上映されることが決まっている。仙台で鑑賞したが大変感動した。会津が大好きで仕方ない方が、只見線は会津の彩りでずっと寄り添っていききたいということで写真を撮り続けてきた。これを台北の方が見つけ火を付けるきっかけになり、日本全国に広がっていくことになった。台北でも写真展が実施され多くの方で賑わったということ。ぜひともリオネで映画を御覧頂きたい。

さて、新年度からは市役所内に陸羽東線利活用推進室を設置し、専任の室長のもと目標達成に向け11の重点的な取組を実施してまいりたいと考えている。東北運輸局、宮城県、JR東日本様と緊密な連携の下に、陸羽東線の利活用促進策の改善の再スタートを切ってまいりたい。市民の皆様、仙台、東京、台北の皆様にも生活路線や観光路線だけではなく、寄り添い路線としてはたらきかけを強めていきたい。皆様方の一層のご理解ご協力をお願いしたい。

以 上